

日本女大人間生活学 ○橋本佐由理 鎌田浩子

<目的>第1報を踏まえ、第2報では身近な問題として大学生が取り組むことのできるリユース・リサイクルに関する意識に焦点を合わせて意識と行動との関連を明らかにする。

<方法>調査方法は第1報と同じである。第2報では、リユース・リサイクル行動と環境問題に関する知識度、環境問題への関心度、環境保護に対する意欲度、リサイクル行動を促す感覚度、リサイクル行動に関する信念度との関連に焦点を合わせた。それぞれの項目は得点化して分析を行なった。

<結果>今回の調査では、環境問題に関する知識度の得点の高い者は全体の約1割であった。そして、環境問題への関心度の高い者は約2割、環境保護に対する意欲度の高い者も約2割、リサイクル行動を促す感覚度の高い者は約3割、リサイクル行動に関する信念度の高い者はほんの3%しかいなかった。また、実際にリユース・リサイクル行動を積極的に行っている者は全体の6%で、しかも6割はほとんど行動をしていないことが示された。リユース・リサイクル行動と環境問題への関心、環境保護に対する意欲、リサイクル行動を促す感覚、リサイクル行動に関する信念とは相互に強い関連が見られた。特に、リサイクル行動に関する信念度の高い者はリユース・リサイクル行動を積極的に行なっているという傾向が見られた。このことから、関心や意欲を高め、行動を促すような感覚を養い、リサイクル行動に関する信念を持たせるような教育をすることがリユース・リサイクル行動につながると思われ、そのためのシステムの構築が必要である。